

和達清夫編 (1958): *Climate of Japan*, 東京堂。
 福岡管区気象台 (1954): 1953年6月下旬, 北部九州
 州豪雨の解析と大雨予想について。
 福岡管区気象台九州電力株式会社 (1958): 不安定

線による豪雨, 雷, たつまき, 突風の予報 (梅雨
 の大雨の予想法第1報)
 笠村幸男 (1955): 大分に現われる南寄の冷氣流に
 ついて, 研究時報, 7巻3号。

気象の英語 (15)

有住直介

17. 反復代名詞 **one** と **that**

聞き手, 読み手にわかる特定なものの代名詞としては, 人称代名詞, 指示代名詞があるが, 同じ名詞が繰り返される場合にその名詞の代りに使う代名詞 (これを反復代名詞という) としては **one** (複数 **ones**), **that** (複数 **those**) および **such** がある。

Lightning starts many forest fires. A single "dry" thunderstorm—**one** with thunder and lightning but no rain—may start more than a hundred fires. (B. M. Parker)

この文では **thunderstorm** という名詞のかわりに **one** を使ったので, 前に出て来た **thunderstorm** そのものを指すわけではない。前出のものそのものを指すときは, 人称代名詞や指示代名詞を使う。たとえば

A strong, dry wind fans a fire and makes it spread rapidly.

この **it** は前にある火事そのものを指すので, **fire** という名詞の代りではない。

繰り返される名詞が複数ならば, **one** の複数 **ones** が使われる。「一つ」の複数は奇妙かも知れないが, この場合の **one** は一つという意味ではないから一向構わない。

繰り返される名詞に **the, this, these, that, those, which** がついていけば, それぞれ, **the one, this one, ……** となる。たとえば

The velocity of the wind can be measured accu-

rately with an anemometer like the **one** pictured on page 9. (B.M. Parker)

the one, the ones の代りには **that, those** を使うことができる。**the one of ~, the ones of** となっているときは, **the one, the ones** の代りに **that, those** を使用しなければならない。たとえば

The extent of Japan in latitude, from the Kuril Islands to Formosa, is equal to **that** from Newfoundland to Cuba, and the climates of the islands are correspondingly varied. Japan feels the monsoons of Asia, and in general the islands have short but hot and humid summers and long, clear and cold winters. (I.R. Tannehill)

The air of hills is cooler than **that** of plains.

日本人々に多い誤まりは, **one, ones** とすべき所を **that, those** とすることで, こうすると **that, those** は反復代名詞でなく指示代名詞になってしまう。また **one** を使っていけないのは, 序数詞の後と, 所有格の名詞, 代名詞の直後である (形容詞がついているときはよい, たとえば **my old one** など)。また **as** の次に反復名詞が来るとき, またはこれと似たような意味の時は, 反復代名詞として **such** を使い, 反復する形容詞や述語としての名詞の代りには **so** を使う。

that は名詞の代りばかりでなく, 反復する **clause** の代りにも使う。これは "and that" なる熟語として知られ, "しかも" と訳されることが多い。

“気象集誌の著者名索引”の発売について

柴田佑氏の「気象集誌の文献目録」については, 「天気」第6巻第3号 p.20 に書いたが, 今度その姉妹編である「気象集誌の著者名索引」が「図書月報」第5巻特別号として出された。

気象集誌の第2輯第1巻 (大正12年, 1923年) から第36巻 (昭和33年, 1958年) までの36年間にわたる論文, 要報, 報告, 紹介などを, 著者名で引けるようにしたものである。著者名を「あいうえお順」に列べ, 各著者名

のところその著者の書いた論文とそれが載っている巻, 号, 頁, 年号を表記してある。同一著者が2編以上書いているときは, それらを年号順にならべてある。著者名がわかっている文献を探すのに重宝なもので, 「文献目録」とともに大いに活用されるに違いない。

一般の方々の便宜を図ってこんど日本気象学会から15部だけ出した。送料とも230円。必要な方は本学会事務局に申込んで下さい。